

移植, 出穂, 結実, 収穫, 脱穀, 計量の実際から, 稲作儀礼, 水田の動植物にいたるまで, きわめて具体的かつ詳細な記述がなされており, さながら「水稻耕作百科」の観を呈している。

本訳書には, タイ国になじみの薄い読者の理解を助けるため, 各章末尾に, 詳細にすぎるほどの訳註と説明写真が加えられている。とくに巻末に付された62葉の参考写真は, 原文はもとより, 英訳にもなかったものであって, 本訳書の価値を高からしめている。

これまでタイ語文献でわが国に翻訳紹介されたものは, 若干の小説をのぞき, ほとんど皆無の状況であったが, アジア・アフリカ言語文化研究所の手によって, 本訳書のような, タイ人学者による研究業績が全訳刊行されたことは, まことに喜ばしいことである。同研究所によって今後, アジア・アフリカ諸国語で書かれた研究書が, 系統的に翻訳紹介されることを期待したい。(石井米雄)

J. Marvin Brown, ed. *AUA Language Center Thai Course*, Book 2. Bangkok: The American University Alumni Association Language Center, 1966. 131p.

先に紹介した *AUA Language Center Thai Course*, Book 1 に直接続くものである。全体で20のレッスンより成り, 各レッスンに費やすべき時間数は, 教室での練習2時間に L.L. での練習1時間となっている。また, L.L. を使用出来ない者は, これを省略し50時間で本書を終えてもさしつかえないように工夫されている。各レッスンは, (1) Tone Practice, (2) Expansions, (3) Patterns, (4) Dialogue, (5) Contrast Drills, (6) Tone Identification Drills, (7) Taped Drills の7部分に分かれており, (7) が L.L. での訓練に当てられるわけである。全体を通じて, 各部分にはいろいろな名前がつけられてはいるが, すべてパターンによる反復練習の方法が取られている。したがって, 一語一語訳してからもう1度全体の意味を考えるとというような行き方は, Book 1 および Book 2 を通じて全然見られない。前半のタイ語には訳がつけられ

ているが, それも後半になると全くなくなる。本書を終了した場合どの程度のタイ語の力を身につけたことになるかという点であるが, わたくしは本書にある文章を本当に身につけてしまえば, 普通の日常の話し言葉では, まず困ることはないと思う。本書のタイ語は純粹の話し言葉ばかりであり, その話し言葉の文もすべてもれなく集められているわけではないが, まずこれだけの口語をものにしておけば, 必要に応じてそれを自分で拡大増加させることはたいてい困難ではないと思う。またタイ文字の使用法については, 本書の性格上, 各レッスンの末に少しずつ例をあげて説明しているだけであるが, それでも Book 2 を終えれば, 最少限の知識は得られるであろう。だいたい本書はタイ語の完成を目ざすものではなくて, 基礎的な話し言葉を能率よく身につけさせ, その基礎の上に各人の必要なり興味なりに応じて, さらに高度の能力を積み重ねてゆくことを予想するものである。ただ本書は AUA におけるタイ語コースにおいて, AUA の方法によりタイ語を学ぶという具体的な線にそって作られたものであるから, 誰がどんな方法で用いても効果が上がるというようなものではない。まず, 独学は不可能であろう。本書が予想している方法を心得た指導者の下に適当なインフォーマントを使用して授業を進めれば, かなり労少なくして効果を上げることが出来るのではないかと思う。いったいに本書ではこの「労少なくして」という点が重んじられているといえる。だから, その「労少なくして」得られる以上のことを本書から予期してはアテがはずれるであろう。

(桂満希郎)

L.M. Hanks, J.R. Hanks and Lauriston Sharp. *Ethnic Notes on Northern Thailand*, Data Paper No. 58. Ithaca: Southeast Asia Program, Department of Asian Studies, Cornell University, 1965. xiii + 96 + 13p

1963年より1964年にかけて行なわれた Benington-Cornell Anthropological Survey of Northern Thailand に参加あるいは何らかの形で関係した研究者達のペーパーを集めたものである。全部で